

期待と希望で胸を膨らませ

市内幼稚園、小中学校で入園・入学式

入学シーズンの4月。市内の幼稚園や小中学校で入園式と入学式が行われました。

北方幼稚園では4月10日、新入園児の4歳児37人と5歳児4人が、真新しい園児服姿で保護者と初登園。先生に名前を呼ばれると、大きな手で手を上げて返事をしました。

錦織小では9日、同校体育館で入学式が催されました。音楽に合わせて新入学児童11人が入場。熊谷喜世校長は「大きな声で元気良くあいさ



大きな声で手を上げて返事をする北方幼稚園の園児

つができるようになってください。交通事故には気を付けて、楽しい学校生活を送りましょう」とあいさつしました。

その後、児童の代表が教科書やお祝いの品を受け取り、在校生がお迎えの言葉を披露しました。

また、津山中では9日、新しい制服姿の新入学生徒41人が緊張した様子で体育館に入場。在校生や保護者らが見守る中、式が始まりました。

佐藤文則校長は「目を輝か



錦織小では11人の1年生が入学しました



津山中入学式で誓いの言葉を述べる熊谷君

せて勉強や部活動に取り組んでほしい」とあいさつ。新入生を代表して、熊谷大州君が「楽しいことやつらいことがあると思いますが、達成する喜びを先生や先輩、仲間と共感できるように頑張りたい」と誓いの言葉を述べました。今年度の市内新入学児童生徒数は、小学生(27校)774人、中学生(10校)815人の1589人。新入園児数は、16園で905人となっています。

地域の宝は地域で守ろう

第42回伊豆沼・内沼クリーンキャンペーン

国際的に有名なラムサール条約指定地の伊豆沼・内沼の自然環境を保全するために、「第42回伊豆沼・内沼クリーンキャンペーン」(同実行委員会主催)が3月21日、登米、栗原両市のサンクチュアリセン



沼周辺のごみをくまなく拾い集める参加者

ター3館で行われました。登米市では、迫町新田地区の市伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターを主会場に実施。同地区の小中学校や市内の企業、各種団体から約620人が参加しました。



集められたごみは分別して集積場に積み込まれました

布施市長は「大勢の皆さんに参加していただき感謝します。沼の自然を守るために、みんなで心地よい汗を流しましょう」とあいさつしました。参加者は、長靴に軍手姿でおよそ2時間余り、沼周辺に捨てられていた空き缶・瓶や雑誌、たばこの吸い殻などを拾い集めました。作業後は、振る舞われた温かい「はっと汁」を堪能し、館内で催されていた写真展なども見学しました。

地域医療のために再出発

国民健康保険米川診療所閉所式

国民健康保険米川診療所閉所式が3月30日、同診療所で行われ、職員、地元議員、医療関係者ら約25人が参加しました。

診療所は、米川村時代の昭和25年12月に開設。以来57年



布施市長から退職する職員に感謝状が贈られました

間にわたり内科、外科、歯科、産婦人科、小児科を診療し、地域の医療を支えてきました。木村康一(きむらやすけ)所長と職員3人は、3月末に退職。市から診療所の土地や建物などを借りて、4月から「米川診療所」の名称で新たに開業しています。

布施市長は「診療所はこれまで、地域の医療に大きな役割を果たしてきました。スタッフ皆さんの努力に心から感謝します。今後は名称を変えて新たなスタートとなりますが、市と連携して共に地域医療を考えていきましょう」とあいさつしました。

その後、退職した職員一人一人に布施市長から感謝状と、医療関係者から花束が手渡されました。

関係機関の連携で延焼を防ぐ 東和町で「林野火災防ぎよ訓練」

「林野火災防ぎよ訓練(県、市主催)」が4月14日、東和町錦織八ヶ森の山林で行われ、県や陸上自衛隊、市の防災関係団体など33機関から約400人が参加しました。訓練は、県内に強風・乾燥の注意報が発令中に、同地区の山林から火災が発生して、強風におおられ延焼拡大する恐れがあると想定。参加した関係機関による、通信・通報、消火、救出・救護など29項目



ヘリによる空中消火用バケツを使った空中消火訓練

の訓練が実施されました。地上消火訓練では、地区住民などが参加して、スギの枝葉を使った火たたきや覆土消火を実施。注水消火が最も有効として、背負い式ポンプによる散水も行われました。また、県や仙台市、山形県自衛隊などのヘリコプター6機も出動。火災現場の北側にある相川ダム(宮手県藤沢町)から給水して、空中消火訓練も実施されました。



現地災害対策本部を設置し迅速な対応が取られました

訓練終了後の閉会式では、統監の村井嘉浩県知事が「昨年県内では林野火災が44件発生したが、今年も数十件の火災が発生すると思われる。訓練を糧に、関係機関との協力を整えてほしい」と講評を述べました。布施市長は「火災時には関係機関との連携、協力が必要になります。応援態勢を強化して、安全・安心な地域づくりに努めたい」と話しました。



地区住民も参加した火たたき消火訓練